

日刊

産業新聞

Japan Metal Bulletin

2022年(令和4年)

7月15日(金)

第20482号
Since1936

アジア物性材料

インジウム合金箔など発売

ガasket向け需要拡大

レアメタル回収・精製のアジア物性材料(本社・横浜市緑区、吉澤信孝社長)はこのほど、インジウム合金箔やワイヤなどの取り扱いを開始した。インジウムと錫や亜鉛、銀などの合金で、従来のインジウムに対して

融点や熱および電気的な特性を調整できることが特長。使用目的や環境へ適合させる。箔の厚さは最薄で50μm程度。ワイヤは直径0.5〜3.7mmに加工し、リールに巻いて供給する。密着性に優れ、ガasket(真空パッキン)向けで需要が拡大。半導体向けでも放熱材料向けで堅調だ。半導体や真空技術業界をターゲットに増販する考え。吉澤社長は「今期は前期より売上高を倍増させる」と意気込む。

従来のインジウム箔は前年より売上高を倍増させる意気込む。要請を受けて合金箔・ワイヤの製造を開始した。ガasket材料はゴムやステンレスなど幅広いが、インジウムは柔らかく密着性に優れるうえ、低劣化で信頼性も高い。今回はインジウムと低融点金属を合金化。



シートやワイヤなどで取りそろえる

融点を引き下げ、従来品より硬い素材を求め、ニーズに応えた。電子部品分野ではヒートシートの接合材料として

き、相場の影響も受けにくいという。今後は機械化を進め、リードタイムの短縮に注力する方針。効率性の向上を図る。

て有望だ。形状は顧客の要望に幅広く対応。ロール状なども取り扱っている。インジウム化合物は特定化学物質(特化規則)の対象にため参入

障壁が高く、競争企業に限られる。製品製造とリサイクルの両方を手掛けることも強み。原料は安定して調達でき、